

【第 2 回 市民交流センター・東山児童館のあり方に関する意見交換会 議事録】要旨

日時：令和 7 年 9 月 22 日（月）19:00～20:45

場所：市民交流センター 集会室

参加者：

【彦根市】彦根市長、企画振興部職員、こども家庭部職員、人事部職員

【説明会参加者】24 人（運営委員、地域住民等）

■ 会義結果要旨

1 【第 1 回の振り返り】

- * 令和 7 年 7 月 31 日に第 1 回意見交換会を開催し、29 名が参加した。
- * 市から、財政状況が危機的であり、公共施設の適正配置が避けられないこと、また東山児童館と市民交流センターの現状について説明を行った。
- * 東山児童館については、老朽化と利用者減少により、北部への「チャチャチャひろば」の移転と民間委託を検討しており、移転が決まれば閉館予定であることを示した。
- * 市民交流センターについては、年間延べ約 6,000 人が利用している一方、築 46 年が経過し、直近 3 年間で 2,000 万円を超える修繕費が発生していることを示した。
- * 参加者からは「地域拠点として必要である」「徒歩で来られる唯一の場所であり、防災拠点でもある」「子育てや高齢者の交流の場が不可欠である」といった意見が多く出された。
- * あわせて、クラウドファンディングの活用、利用料や協力金の導入、地域で管理する仕組みづくりなど、運営改善に関する提案もあった。
- * 市長からは、「現状維持は困難であるが、市民からの具体的提案は残したいという強い思いの表れであり、廃止か継続かの二者択一ではなく、地域と協力しながら活用のあり方を考えたい」との発言があった。

2 【市民交流センターの状況と業務について】

- * 開館状況は、平日 8 時 30 分から 17 時 15 分までであり、年末年始（12 月 29 日から 1 月 3 日まで）は休館としている。
- * 人員体制は、所長 1 名、常勤職員 1 名、週 4 日勤務職員 1 名、週 3 日勤務用務員 1 名。（所長 1 名、常勤職員 1 名は児童館・チャチャチャひろばと兼務）
- * 設置目的は、市民の交流を推進し、市民活動を促進するとともに、市民と市の協力による

まちづくりを進めることにより、活力ある地域社会を形成し、市民福祉を増進すること。

- * 利用実績（令和 6 年度）は延べ 5,022 人であり、内訳はセンター事業 480 人、自治会等 426 人、福祉活動団体等 2,098 人、サークル活動等 1,101 人、公金収納 221 人、その他 696 人。
 - * 講座事業としては、健康づくり、趣味、歴史、シニア向けの講座などを実施した。
 - * 交流センターだよりは、毎月 1 回、年間 12 回発行した。
 - * その他業務として、開錠・施錠、館内清掃、ごみ出し、草刈り・植木管理、会議室利用調整、鍵の貸出しなどを行っている。
-

3 【東山児童館の状況と今後について】

- * 昭和 58 年築であり、老朽化が進行している。
 - * 利用者は大幅に減少しており、令和 6 年度 4 月から 6 月の平均は月 3 人程度。
 - * 北部への「チャチャチャひろば」移転に向けた協議を進めており、条件が整えば令和 7 年度末に閉館する予定。
 - * 建物については、市民交流センターとあわせて、今後の活用方法を地域とともに検討することとしている。
-

4 【団体からの運営協力について】

- * 町としても必要であり、市民交流センターをなくすのは困る。
- * 市の事情だけでなく、地域の思いに寄り添って答えを出してほしい。
- * 高齢化が進み、自治会運営そのものに余裕がなく、町だけで管理するのは困難。（A 自治会）
- * 働き世代が多く、費用も大きいため、地域単独での管理は反対。（B 自治会）
- * 地域で一から立ち上げるのは難しいが、協力できることは考えたい。
- * 複数の団体で協力し合い、オール佐和山として指定管理を受けることはできないか。（欠席団体からの事前提案）
- * 他町（地区）の自治会館は、町民がお金を出し建設し、修繕等維持管理もしている。市の予算が厳しいのであれば、他町（地区）と同じように維持管理すべき。
- * 各団体の代表が集まり、話し合いながら協力して維持していく方法を考えるべきでは。

5 【意見交換】

- * （参加者）利用者が増えた場合、施設存続の可能性はあるか？
（市）利用人数が増えらると対応人員が必要となり、市が負担する費用は結局増えることになる。
- * （参加者）どの地域も自治会費から地域の自治会館を建て、修繕、管理をしている。自治会で新しく建てること、自治会だけでの施設管理が難しいなら、利用団体代表を集めて、話し合いをしてはどうか？
（市）地域のみなさんの協力を得て、鍵の開け閉め、水やり、会議室利用の対応、清掃など、協力パターンはいくつかある。
- * （参加者）残すために必要なコストは？残したい側がクラウドファンディングを導入してはどうか？開館日を減らすなど柔軟な運営を検討すべき。
（市）現在の事業規模を維持する場合 250 万円程の費用が掛かるが、市民交流センターというよりも自治会館的な使い方に見直すのであれば、概算で光熱水費は 50 万円、使用料 16 万円、備品購入 25 万円、消耗品 20 万円。その他人件費。警備契約を見直し、鍵を利用団体に預けるなどで経費を削減できるのではないかと考える。
- * （参加者）維持管理がまかなえる規模の使用料を徴収となれば、利用者はかなり減るのではないか？
（市）条例を改正すれば利用料を徴収できるが、その場合の収入の扱いをどうするかが課題。
- * （参加者）市民交流センターという機能を必ず残すのか。今のこの施設にないといけないのか。それとも普通財産として地域の活動場所として考えるのか。それによって今後の方向性が大きく変わってくるのではないか？
（市）普通財産として地域で活用していただく場合、前例がない話であり、手続き等研究していかないとはいけない。

■ 市長挨拶（要旨）

- ・財政は厳しく、現状のままの維持は困難。
- ・廃止か継続の二者択一ではなく、地域と協力しながら活用のあり方を検討したい。

- ・段階的縮小（例：開館日・時間の見直し、役割分担）や、移行の途中では、市ができる範囲で支援していく可能性も考えられる。
 - ・運営の工夫（役割分担や費用負担など）について、利用団体代表から具体的な提案をお願いしたい。
-

■ 今後について

以下の検討を進める：

- 1 最低限の維持管理コストの再整理（削減可能項目の確認、警備契約の要否 等）
- 2 普通財産として活用していくことの課題整理
- 3 開館形態の見直し案（曜日・時間・鍵運用）
- 4 利用団体代表者で組織する会の立上げの検討

当日出せなかった意見については、当日配布の「ご意見シート」に記入いただき、窓口またはメール／FAX で提出をお願いします。

結果要旨は市ホームページでお知らせする。

今後についてのスケジュールは現在のところ未定。決まり次第案内をさせていただきます。